満天下の諸彦▼

東京葛飾 坂井発動機製作所争議の原因と経過を公正に批判され度し

ストライキの原因

少年徒弟を酷使し、
殴打し、書信を破り、
約束の年期金を渡さず
職人には、主人自ら書いた覚書も、
警視庁、葛飾署員立合で作られ
第二回覚書をも破棄し、
暴力団を雇い入れて職人徒弟を
脅迫し、暴力をもって横車を押さんとした!!

坂井発動機製作所は全従業員約七十名、中徒弟四十余名の工場であります。創業約十年前、以来徒弟を百四十名位入れたが、満足に年が明けた者はタッタ参名であり、その参名も、年明金参百円を百八十円、弐百円を百円しか与へず、約束の仕着も出さない。

年明間際になると、年明金を出すのが惜しく、ためにイヂリ出して終ふ。平常天長節でも八時迄夜業させる(徒弟だけ)

健康保険は三名に一名位の割で附けて二重三重に使ふ。

工場法による寄宿舎も、食堂も、浴場も、休憩時間もない。

徒弟を募集するには甘言を用ひ、東京へ連れて来ると金も借りないのに人身売買の如き契約書に判をおさす。

此の惨忍は遂に

徒弟の逃亡となり、親よりの抗ぎとなり、残留徒弟の要求となり争ぎとなった。

今年四月七日堪り兼ねた徒弟四十名は主人に談判して、以後改善する旨声明と共に、七ヶ条の改善案を約束したが遂に実行せず。次いで、九日、全員の惜しむ職長を首にし、十日職人が全員で職長の復職を嘆願したが容れられず。

十二日職工より、退職手当制の要求と共に、要求を容れて、覚書を出したが

二十二日、前記覚書を、暴力を連れて来て、破棄の宣告をした。

之れ迄は、徒弟も職人も唯一人、労働組合に加盟したり連絡はなかったが、主人側の余りの横暴に遂に組合に頼み二十三日主人に交渉した、午后一時より、夜中の一時迄掛り漸やく話がまとまり、覚書交換した、此の会見には、署員立合であった。

又々覚書の約諾を破る

然るに四月二十九日夕方、主人は暴力団に表門を固めさせて、職人五名に解雇を言ひ渡した。理由は、四面見るのが厭だからであると!!

斯くて一同は狂気じみた主人側の暴挙にフンガイし、反省を促がすべく、三十日より争ぎに入った、徒弟も職人の後を追って来たばかりの徒弟の外、少し仕事の出来る徒弟達一同は工場を脱出して職人と合流した

争ぎの経過

徒弟の実家并区民に報告し、演説会を開き
東京の各団体の応援を得、争ぎ団は大義名分、
堂々の陣により必勝を期して居る。

坂井工場は、職人と徒弟の仕事の出来る者に争議されては、工場には仕事が出来ん。臨時工を雇って見るも専門の発動機には素人と同じだ、ただ暴力団のみ日に数を増し、虚勢を張って、モーターをかけてみるも、セ品は上らぬ状態だ。

工場は警察によって交渉を望み、二回交渉するも、未だ[illegible]反省の色なく、工場を閉鎖すると言って泣きごとをならべて居る。近々争ぎ団は最后的攻撃により坂井の反省を得るでせう。徒弟の親達により徒弟を取り返さうとして、アベコベに親達より抗議を喰ひ、残留徒弟も日に親元に連れ戻されたり、争議に参加する有様。また、サキに逃亡した徒弟連は、坂井争ぎを聞きつけて続々争ぎ団に来り、応援し、区民また悪魔の如き坂井を呪って、正に今、坂井は四面ソカの有様です。

正義未だ亡びざるを、争ぎ団一同喜んで居る次第です。

得意先の皆様

坂井工場は各府県代理店に外交員を派し
得意先へ代理店員と共に訪問せしめ
代り店員を帰宅せしめて内証で直接売り込み
代り店のフン激を買ひ、
各地代り店より、ワンサと品物を返されたとのことは昨年の暮れのことである。

それを職長の故として職長を首にした。職長はセ品を作り、主人たかつの検査場に送り、ヨイとなって送荷されたのだから、然らば前記の如き責任を負ふべきでありませうか?

長年坂井のセ品の声価を高めた、職長や熟練工、徒弟を無くて坂井工場は将来如何になりませうか。

大阪の山岡発動キセ作所が先年争議になったとき、坂井は得たりとして山岡工場の得意先を荒し廻りアレデ儲けたよ、と話す程のエラ者だ。

金あるまいに
非をもって理を圧殺せんとする資本家

眼中私欲あって
国家国民なき、国賊的資本家坂井
に対し、私達は死を覚して斗かひます

昭和十年五月十一日 坂井発動キ製作所争議団

東京、[illegible]町五・五五南方